

DENA／ヤマト運輸

宅配便を自動配送する「ロボネコヤマト」の実用試験

TV電話で注文すると、間もなくロボットが自宅までピザを届けてくれる——こんなSF映画を昔観た方も多いと思う。当時は「遠い未来の話」と高をくくっていたハズだが、どうやら、そう遠くはない将来に実現しそうである。

宅配便最大手のヤマト運輸（本社・東京都中央区、長尾 裕社長）は、ディー・エヌ・エー（DENA。本社・



黄色のボディの「ロボネコヤマト」の宅配車（ヤマト運輸）

東京都渋谷区。守安 功社長兼CEO）と共同で、4月17日から自動運転を目指した実用実験を開始。名付けて「ロボネコヤマト」だ。

もちろん、AIロボットの「黒猫」が荷物を加えて宅配に奔走するわけではない。自動運転の電気自動車（EV）が安全・迅速・丁寧に集配を行なうというイメージを具現化するための、大きな一歩前へ。が、今回の狙いである。

ただし、今回は、自動運転までは踏み込まず、あくまでも「有人運転」で展開される。

主眼は、

①「ロボネコデリバリー」…自動運転時代を見越した荷物の発送・受け取りのオン・デマンド配送サービス

②「ロボネコストア」…これと連動した買い物代行サービスの2つを検証し、問題点、改善点を探ること。

実験場所として、国家戦略特区に指定された、神奈川県藤沢市の鵜沼海岸、辻堂東海岸、本鵜沼の3地区を選び、来年の3月31日まで約1年間続けられる予定だ。

さて、実験の具体的な中身は次の

とおり。

まず、「ロボネコデリバリー」は、早い話、「セルフ荷物受け渡し」。セルスドライブを介することなく、利用者が直接、自動運転の宅配車から自分の荷物を取り出したり、預けたりすることを目指すもの。（今回は受け取りだけに限定）。また、配送時間を10分刻みで選ぶことも可能（配送時間は毎日8～21時）で、自宅以外にも、例えば最寄駅や会社、友人宅など、対象エリア内であれば、どこでも受け渡しができる点もミソ。もちろん冷蔵・冷凍品にも対応。スマホなどを使って到着3分前には自動音声で知らせてくれるという。

到着後は、暗証番号を宅配車に備え付けられたタッチパネルに入力（スマホ利用も可）、車体後部の保管ボックスから取り出す仕組みだ。

一方、「ロボネコストア」は、「クロネコデリバリー」のインフラを十二分に活用したサービスで、ネット上の仮想モールから、対象店舗の商品を一括購入、自動配送することを目指すものだ。

モールに登録する地元商店街の店舗のお気に入り商品を注文、スマホ

荷物はセルフサービスで受け取る（ヤマト運輸）



を使って到着予定時間をリアルタイムで確認する、いわば「トレーサビリティ」機能も付加。わざわざ店先に足を運ばなくとも、新鮮な野菜や肉、野菜など、日々必要な食材を短時間で調達できることから、高齢者には特に朗報だろう。

ちなみに、「ロボネコデリバリー」の利用に関しては無料、また「ロボネコストア」は注文総額が3000円未満の場合、税込324円、同3000円以上の場合には無料。

ヤマトは、今回の実用実権を踏まえ、早ければ2018年をメドに、一部配送区間での自動運転の導入へと駒を進める意気込みだ。